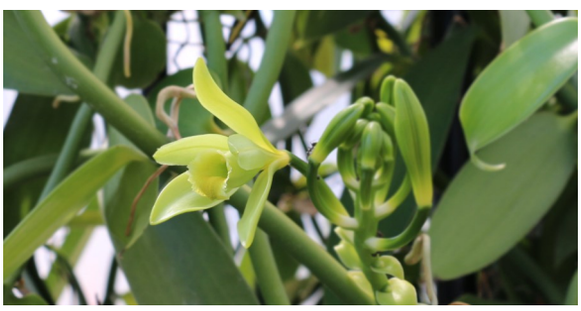
KPU NEWS
社会を動かす薬学へ。
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY
No. 198 July. 2019

薬用植物園御陵園（みささぎ）　初夏の一般公開を開催

薬用植物園長　企画・広報課

去る5月25日（土）、本学薬用植物園御陵園 初夏の一般公開を行いました。本園は、約2,700㎡の敷地内に、畑、熱帯植物を栽培する温室、水生植物を栽培する池、庭園があり、園内には生薬の基原となる様々な薬用植物約300種を植栽し、普段は、学生達が植物の特徴等について観察する実習の場となっています。毎年10月に開催する本学一般公開講座では、秋に花の咲く薬用植物の公開を行っていますが、参加者の皆様から「春に花の咲く薬用植物も観賞したい。」との要望があり、それにお応えする形で企画を行い、今回初めてこの時期に公開する運びとなりました。

職員・学生による植物解説も好評



午前中のみ花を咲かせるバニラ

当日は“猛暑日”の予報にもかかわらず、約1,400名の参加がありました。プログラムは、午前の部（10:00～12:00）と午後の部（14:00～16:00）の二部制で、園内の見学エリアごとに、本学の教員と学生スタッフが、薬用植物の解説を行った後、質疑応答としました。この季節には、約30種類程度の植物が見頃になります。今回は、午前中の限られた時間にしか咲かないバニラの花や、「令和」に改元されたことで注目された日本最古の歌集である『万葉集』にちなみ、万葉の時代に中国から渡来したとされるアカヤジオウやその近縁種のカイケイジオウなどを紹介しました。参加者の皆様からは、多くの高評価をいただきましたので、次年度以降も開催できるよう努めていきたいと考えています。

CONTENTS

■ 特 集
manabaの導入・活用について …… 4

■ご 挨 拶
新任のご挨拶 …… 2

■ お 知 ら せ
永年勤続祝金授与式 …… 3
Library News …… 9
クラブだより …… 12
2019年度 試験関係日程 …… 13
人事 …… 14
2020年度 京都薬科大学入学試験について（概要） …… 15
2020年度 大学院入学選考概要 …… 16
お知らせ …… 20
教育後援会からのお知らせ …… 22
京薬会だより …… 25

■ コ ラ ム
卒業生からのメッセージ …… 8
京薬コレクション …… 9
水中でぶつぶつ …… 10

■ イ ベ ン ト
薬用植物園御陵園 初夏の一般公開を開催 …… 1
各種セミナーの報告書 …… 8
2019年度生涯研修プログラムのお知らせ …… 11
「飲酒マナーセミナー」を実施しました …… 12
第3回「クリニカル・リサーチ・マネジメントプログラム」開催 …… 24

■ 報 告
2018年度 決算について …… 18
平成31年度科学研究費助成事業 採択状況 …… 21
ミャンマーでの医療ボランティアに参加して …… 22
OIST SCIENCE CHALLENGE 2019 に参加して …… 23
受賞・掲載 …… 26
京都薬科大学奨学寄附金芳名録 …… 28

新任のご挨拶

一般教育分野

講師　岸野　亮示（りょうじ）

この度2019年4月1日付で一般教育分野の講師に着任した岸野亮示と申します。私の専門領域は「仏教学」です。2004年3月に京都大学文学部仏教学科を卒業した後、同大学大学院文学研究科に進学し修士号を取得、博士課程を指導認定退学しました。そしてカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の大学院に入学し、2013年12月にPh.D.を取得しました。

その後日本学術振興会特別研究員（PD）および大谷大学助教を経て現在に至っています。研究においては、主にインド語（サンスクリット・パーリ語）・チベット語訳・漢訳で現存する「律（りつ）」という仏教の戒律テキストを解読し、古代インドの仏教修行者の信仰活動の実態や、インドから漢字文化圏・チベット語文化圏にわたった律テキストの伝承過程の解明に取り組んでいます。本学では、自身の専門的知見や経験を研究・教育においてはもちろんのこと、大学運営においても最大限に発揮し「愛学躬行」の実践者の育成および伝統ある本学のさらなる発展に尽力する所存です。ご善導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

微生物・感染制御学分野

助教　鴨志田　剛（ごう）

2019年4月1日より微生物・感染制御学分野の助教を拝命いたしました。伝統ある本学に加えていただくことは光栄の至りです。

私は神奈川県出身で、星薬科大学薬学部を卒業後、同大学の辻勉教授（微生物学教室）のご指導の下、腫瘍学を学び博士課程を修了しました。学位取得後は、帝京大学医学部微生物学講座（斧康雄主任教授）の助手および助教として医学部で感染症学の研究・教育に6年間たずさわりました。

私自身も薬学の単科大学出身ですが、総合大学で教育・研究に従事し、医学部や医療技術学部などの方と接することで、それぞれの医療や研究に対する向き合い方の違いを学ぶことができました。その中で、薬学の強みや課題にも気付くことができ、その経験を活かした教育・研究ができればと考えています。本学の教育理念であるファーマシスト・サイエンティストの育成は、薬学の強みを活かし、課題を解決する最適な教育理念だと思います。その理念の下、薬の知識や技術に加え、研究を通じ、論理的思考と多角的視点を持つ薬剤師の育成に貢献できればと思っています。皆様のご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

事務局

情報管理推進室

主事　太田　周人（しゅうと）

2019年4月1日付で入職し情報管理推進室に配属となりました太田と申します。本紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は大学卒業後、民間企業での勤務を経て、2010年から9年間、京都府内の自治体に勤務し、庁内の情報システムやネットワークの管理運用を行っていました。

公務員として働く上では、全体の奉仕者という立場を常に意識し、法令に従い公正に職務に当たるよう努めて参りました。フィールドは異なりますが、本学での勤務においてもその意識を忘れることなく、本学と本学に関わる皆様のために自分の持てる力を尽くして参りたいと考えております。

昨今の著しい情報化の進展により、生活様式を変えてしまうほどの利便性がもたらされる一方、様々な弊害も生じています。そのような高度情報化社会において、本学の情報化が学生生活や研究活動に常にプラスに働くよう、職務に励んで参りたいと思います。

至らぬ点もあるかと思いますが、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

事務局
企画・広報課

事務員　中村　洸稀（ひろき）

2019年4月1日付で入職し、事務局企画・広報課に配属となりました中村洸稀と申します。本誌面をお借りし、ご挨拶申し上げます。

私は2015年に立命館大学法学部を卒業し、化学メーカーに入社、人事・採用担当および住宅の営業を行ってきました。学生時代はバレーボールに打ち込み、社会人となった現在もクラブチームに所属しています。

私の子どもの頃の夢は「病を治す薬の開発」でした。そして、実は京都薬科大学は私が受験を考えていた大学でもございます。この度、「薬学」という私の思い描いていた夢に類似する学生の皆さんを支えられる事務員となれたこと、大変嬉しく思っております。

これまでの経験を活かしながら、本学の大学運営の発展に貢献できるよう、日々精進して参ります。知識・経験において乏しい部分も多くあると思いますが、ご指導ご鞭撻賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

事務局
教務課

事務員　林　貴志（たかし）

2019年4月1日付で入職し、教務課に配属となりました林と申します。

私は大学卒業後、電子部品メーカーの営業として、総合家電メーカーや車部品メーカーへの提案活動に従事してまいりました。顧客に認められる提案を行うため、業界やモノづくりの工程について学んだ時間は、有意義な経験であったと思います。製造業と本学では直接的な関わりは少ないですが、この度縁があり事務職員として採用いただき、嬉しく思います。

教務課では主にmanaba管理、履修登録、時間割作成、薬学共用試験などを担当いたします。前職とは大きく異なる業務となりますが、学生の成長に貢献できることに、非常にやりがいを感じております。一日も早く一人前となり、本学の発展に貢献できるよう、精進してまいります。

ご迷惑をおかけしてしまう点も多々あるかと思いますが、皆様のご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

NEWS　永年勤続祝金授与式

庶務課

勤続10年を迎えた職員に、土屋勝理事長から永年勤続祝金が授与されました。

永年勤続祝金授与式にて

教　授	細井　信造
教　授	矢野　義孝
准教授	長澤　吉則
講　師	石原　慶一
講　師	伊藤　由佳子
講　師	松村　千佳子
助　教	峯垣　哲也

（以上　2019.4.1付）

manabaの導入・活用について

京都薬科大学では、以前からLearning Management System（LMS：学習管理システム）である「moodle」を運用してきましたが、2018年4月から新LMS「manaba」を導入・運用開始し、本学の学部および大学院におけるITやICTを活用した教育環境の整備・充実を図っています。本稿では、新たに導入した「manaba」の主な機能に関する説明と、2018年度の活用状況などについて紹介いたします。

KPU$_{NEWS}$編集委員長　藤原　洋一

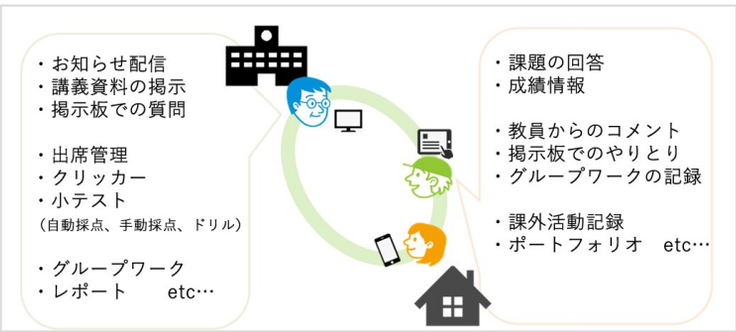
■LMS(manaba)導入について

LMSとは講義における教材の配信・管理、レポート提出、小テスト実施、授業評価アンケート実施や掲示板機能などが組み込まれたシステムであり、現在、世界中の多くの教育機関で用いられているシステムです。現在日本で利用されている代表的なLMSとしては「Blackboard」「moodle」「manaba」などが挙げられます。本学でも2009年からLMS「moodle」を導入し、講義や演習での教材配信やレポート提出、小テストの実施などに活用してきましたが、教育における更なる利用促進を目指し2018年4月から新LMS「manaba」を導入・運用開始いたしました。本学が「manaba」を選定した理由は、シンプルなインターフェースと、実際に利用する学生・教職員が必要とする基本的機能を全て搭載していること、直感的に使えるからこそストレスもなく、学生・教職員の利用率も高いというこれまでの実績を評価したためです。

■LMS「manaba」の主な機能と本学での活用について

「manaba」は「授業支援機能」、「ポートフォリオ機能」、「授業アンケート機能」、「respon（アクティブラーニングツール）」が一つとなったLMSです。本学では、以下のように「manaba」を利用しています。

「manaba」ログイン画面



システムの概要

①コース（授業）

本学では学生の皆さんが履修する全科目の「コース」を作成しています。「コース」とは教員からの授業に関するお知らせを確認したり、課題（小テストやレポートなど）を提出したり、掲示板でディスカッションしたりすることができるスペースです。コースには以下のような機能があります。

・小テスト

「manaba」には、提出すると自動的に採点が行われる「自動採点小テスト」、採点は教員が行う「手動採点小テスト」、繰り返し回答できる「ドリル」の3種類の小テストがあります。

・アンケート

教員からのアンケートに回答する機能です。

・レポート

教員からの課された課題（レポート）を提出する機能です。Web上でテキストを直接入力できる「オンライン入力レポート」とWordなどのファイルを添付できる「ファイル送信レポート」があります。

・プロジェクト
　プロジェクトでは、コースの学生が複数のチームに分かれ、1つのテーマ（プロジェクト課題）についてチームごとに議論し、課題を提出できます。 各チームには、「チームメンバーと先生のみ書き込みのできる掲示板」と「課題提出窓口」が用意されています。提出された課題は、学生同士で閲覧し合い、お互いにコメントをすることもできます。

・掲示板
　コースごとに、スレッド式の掲示板があります。教員への質問や、学生同士のディスカッションの場として活用しましょう。（掲示板の利用は教員から許可があった場合のみ利用可です）

・コースコンテンツ
　コースコンテンツには授業に関する資料や様々な情報が掲載されます。実習科目では手技等を予習・復習するための動画をアップロードしている科目もあります。

・respon（レスポン）
　「respon」は出席管理やリアルタイムアンケートの機能を備えるアクティブ・ラーニング支援ツールです。「respon」を利用することでリアルタイムに教員、他の受講生と意見の共有などを行うことができ、教員と学生のコミュニケーションを高めることが可能となります。

　なお、「manaba」にログインすると現在皆さんが履修している科目の「コース」が表示されますが、トップページのプルダウンを「過去のコース」とすることでこれまで履修した科目の「コース」を確認することができます。過去に履修した科目で配布された資料や、自身が提出したレポートなども確認することができますので、是非これまで履修した科目の復習にも「manaba」を活用してください。

②授業アンケート
　本学では2018年度から学部の授業アンケートで「manaba」を活用しています（大学院は2019年度から）。授業アンケートが上記「コース」内のアンケート機能と異なる点は、回答内容が匿名で担当教員にフィードバックされる点ですので、学生の皆さんは安心して率直にアンケートに回答してください。なお、2018年度（後期）の授業アンケート回答率は52%でした。今後も多くの学生の皆さんのご協力をよろしくお願いします。

③ポートフォリオ
　ポートフォリオには、各コースで提出した課題（レポートやプロジェクトの課題など）が保存されます。このポートフォリオは学生の皆さんの6年間の学びが蓄積されていきますので、自身の過去の学びを振り返るのに活用してください。なお、ポートフォリオに保存されていくデータは教員がポートフォリオに保存すると指定したレポートやアンケートになります。

④学年掲示板
　「manaba」上に各学年の掲示板を作成しています。愛学館1階の掲示板同様、学生の皆さんに必要な情報を掲示していますので、定期的にチェックしてください。

⑤その他
　これまでに挙げた利用方法以外にも、学生相談員ごとのコース、研究室のコース、キャリア支援のコースなど、様々な形で「manaba」を活用しています。本学としては今後も様々な場面で「manaba」を有効活用し、学生の皆さんの学びを支援していきたいと考えております。

　以上、2018年度に導入した「manaba」の主な機能を説明させていただきました。ここからは、「manaba」を実際に活用して授業を行っている教員の取り組みを紹介させていただきます。

■微生物・感染制御学分野　教授　小田 真隆

学習管理システム（manaba）導入後、私が担当する講義では、できる限りペーパーレス化を進めました。導入当初は、学生が紙の配布物に慣れていたためか、「配布物は無いのでしょうか？」や「白黒でもいいので配布物にしてくれませんか？」などの問い合わせがありましたが、講義回数が増すと共にそのような声は少なくなり、「資料がカラーなので見やすい。」や「データとして保存できるので整理しやすい。」などの意見が多く聞かれるようになりました。また、manabaを介してレポート提出させることにより、資料の収集、整理、そして保管がとても容易になりました。学生からも「手書きで書いたレポートをスマートフォンで撮影後、PDF化してmanabaへアップロードするだけなので、資料は手元に残り、提出の手間も省けた。」など、manabaを利用したレポート提出に対して前向きな意見を多くいただきました。現在では、資料閲覧やノート（メモ帳）としてタブレットを使用している学生が増加傾向にありますが、まだまだ少数派です。今後は、低学年次からITやICTを活用し、学修効果向上に努めて欲しいと思います。

manabaの導入により講義資料の印刷や配布時間が無くなり、かつレポートの整理時間を大幅に短縮することができ、仕事の効率化につながっています。今後は、responを使用したアクティブラーニングを行い、講義の中に「考える時間」や「議論する時間」を増やしていきたいと思います。

■一般教育分野　准教授　坂本　尚志

もともと授業に双方向のコミュニケーションを取り入れることを目的として、コメントシートやウェブアンケートなどを使っていました。しかし、紙媒体の場合は目を通すのに時間がかかるなど、大人数の授業の場合は特に不便に感じることがありました。また、ウェブアンケートは即時性が強みでしたが、アクセスにかかる手間が授業の円滑な進行を妨げることもありました。

昨年度より導入されたmanaba（そしてrespon）は、学生の反応や理解度を知るためのツールとして特に使いやすいと感じています。私の授業では、異なる意見や立場を知り、さらに考えてもらうことが多いのですが、時間をかけることなく多くの意見を集約できることは、学生の学びにとっても意義あることであると思います。

また、学生データと連動していることで、レポート課題の提出等も一元的に管理できるようになりました。それによって、授業準備や採点等、これまで時間を多くとられていた作業が短縮され、教育内容の改善や研究のために時間を使えるようになったと感じています。

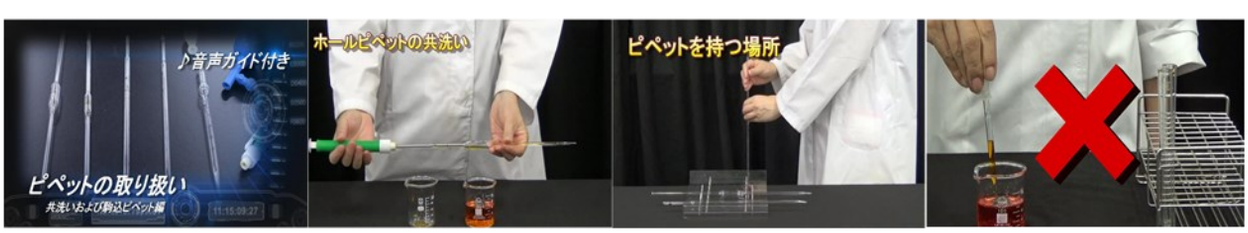
また、学生にとっては、1年生からの学習履歴がポートフォリオに蓄積されていきますので、自分の学びの振り返りのための有効なツールとして使いこなしてほしいと思います。

■学生実習支援センター　助教　髙尾　郁子

学生実習は実験を通じて講義で学んだ理論を活用する技能を修得すると同時に、知識の定着および深化を目的としています。限られた実習時間の中、安全を確保した上で、より効率的かつ効果的に学修するために、本センターでは分野と協働し、学習支援システム（LMS）を用いた事前学習環境の整備や実習アンケート調査など様々な取り組みを実施しています。事前学習の環境整備については、実験器具などの使用法を解説した動画教材（操作ビデオ）を作成し、manabaのコースコンテンツ機能を用いて配信しています（※教材例を参照）。動画は文字より実験のイメージしやすく理解しやすいこと、またわからないところはゆっくり再生できること、繰り返し確認できることが利点です。動画配信によって事前学習の取り組み率は向上し、実習に関する基本的知識や意識が高まりました。それに伴い実験精度の向上や怪我の軽減といった成果にも繋がっています。

このような取り組みの実施や改善には、受講生の皆さんの意見が欠かせません。実習全体の改善を図るためmanabaを利用したアンケートを実施し、意見の収集を行っています。忌憚のない意見を述べていただき、既存の動画教材の改良をはじめ、今後の実習教育のさらなる充実に協力をしていただけると幸いです。

※教材例



■学生の声

続いて、実際にmanabaを使用している学生にインタビューしました。

◇4年次生　女子

私たち4年次生以上の学生は、manabaの前身であるmoodleも使っていました。それと比較すると、科目ごとのページを探しやすくなりましたし、サイト全体として見やすさが格段に良くなりました。

また、授業評価アンケートをmanabaで行うようになりました。正直なところ紙媒体でアンケートを行っていた頃は書くのが手間でアンケートを提出していない学生も多く見られたと思いますが、manabaで入力できるようになって手軽に行えるようになり、学生も取り組みやすくなったのではないでしょうか。

他にもmanabaのresponという機能を使った学生参加型の授業が行われることもあります。今までは先生が一方的に授業をされる形でしたが、responを通して学生が意見を発することができるようになり新しい形の授業が行われるようになりました。

一方で定期試験の成績をWebで確認する時、moodleの頃はテスト成績発表のWebリンクがmoodleのサイト上にありましたが、manabaにはありません。そのため、manabaに移行してからはテストの成績発表のWebリンクを探すのに少し苦労します。可能であれば、manaba上にもそのリンクを掲載していただけると幸いです。

学生が利用する大学Webについて学生自身が意見できる場をこのように設けて頂き大変嬉しく思います。このような機会を通してmanabaがより良くなることを楽しみにしています。

◇その他の意見

<u>便利な点</u>

・掲示板、シラバスがネット上でいつでも見ることができる
・先生への質問ができ、授業の疑問を早く解決できる
・授業評価アンケートがmanaba上でできるため簡単で便利になった
・全てデータ化されているためどこでも見ることができる
・アンケートを時間にとらわれず、いつでも提出できる
・授業の時間割のページがあり、そこからシラバスや授業のスライドのあるページを閲覧できる
・課題やアンケートなどの提出状況が確認できるので、締め切りを忘れることがない
・授業でのアンケートや振り返りなどで使用するのは紙媒体で行なっていた時よりも、使いやすいと感じます。周りを気にせず自分のタイミングでできる点も良いと感じます。

<u>不便な点</u>

・資料をmanabaにアップロードすることで授業プリントが配付されず、自分でプリントアウトしなければならない。また、1週間程度で公開停止になる科目があるのも不便である。
・manabaを活用する先生がいらっしゃる一方で、学生はiPadを必ず持っているわけではないので、持っていない学生は不便。
・授業のスライドがmanabaで公開される点については非常に良いと感じるが、レジュメが授業の直前や前日にアップロードされると準備が間に合わない。

■おわりに

この他にも授業評価アンケートや学生満足度調査等で様々な意見をいただいています。導入してまだ2年と日も浅いので、全ての機能について活用できているとはいえませんが、利用する学生の皆様にとって、よりよいものとなるような効果的な運用を図っていきます。

各種セミナーの報告書

Event

これまでに開催されたセミナーにおいて、本誌に未掲載の報告書は以下よりご覧いただけます。

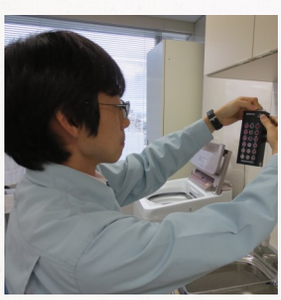
セミナー名	開催日	詳細	URL
キャリアパスセミナー	2月10日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20190210_report.pdf
遺伝子・ゲノムセミナー	2月23日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20190223_report.pdf
第4回 市民公開講座「子宮頸がん」	3月2日		https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20190302_report.pdf

卒業生からのメッセージ

Column.

ぶれない軸を作る

田村　亮輔（りょうすけ）



2015年 学部卒業
（物理学分野）

大阪府守口保健所
衛生課

皆さんはどのように日々の大学生活を送っておられるでしょうか。私自身、大学時代を振り返ってみると、勉強や研究活動よりも所属していたソフトテニス部で強くなるために練習に明け暮れていたような気がします。皆さんもそれぞれに勉強やアルバイトに部活動、サークル活動等々、頑張っていること、やろうとしていることがあると思います。とにかくそれを、他人にどう言われようが自分が思う精一杯までやり通してみてください。逆に、ただ日々を無気力に消化しているだけだなあと感じている人は、大学生活の中で何かやること、頑張ってみること、目標などを決めてみてはどうでしょうか。

そうして目標に向かって頑張ることで自ずと自分の中に“軸”のようなものができてくると思います。これは、自分の行動指針とか価値観というような言い方もできるでしょうか。とにかく、その軸を大切に日々の学生生活を送っていただければ、将来の道なども自然と決まってくるのではないかなと思います。そして、これは私自身の大学生活の反省でもあるのですが、その軸を中心に大学生のうちからより視野を広く、柔軟に世間を見渡してみてほしいと思います。

ところで、私の現在の仕事ですが、美容室の確認検査や旅館の許可申請の受付、建築物やプールの衛生管理指導といった、いわゆる環境衛生に関する業務を担っています。そのため、大学で学んだ医薬品の知識などが仕事に直結することは少なく、苦手だった公衆衛生分野の知識はもちろん、担当する法律や制度についても理解し、地域住民の方や営業者、施設管理者といった様々な立場の方への指導や助言等をしなければならず、最初はしんどい思いをたくさんしました。しかし、そうした経験を経て、固定観念にとらわれず、様々な価値観を理解することができたと思います。大学生活で知識を蓄えるだけでなく、薬剤師として、あるいは人としての軸の形成は、どんな仕事に就こうとも大切なことだと思いました。

大学では基礎となる軸を作り、そして、それぞれの道でその軸を太く成長させていく、その繰り返しによって仕事も充実し、また人としても成長していけるのではないかなと思います。皆さんがそれぞれにぶれない軸をもって社会で活躍されることを願っています。

京薬コレクション Column vol. 7

作 品 名　明けゆく比叡
作　　者　芝田　耕
規　　格　油彩　P60号

芝田　耕（しばた こう）：1918～2010年　京都市上京区出身　洋画家　1934年京都市立第二工業高校（京都市立伏見工業高等学校、現京都市立京都工学院高等学校）建築科を卒業。1941年以降須田国太郎に師事。須田が指導に当っていた西陣の独立美術協会京都研究所に入所し、京都市展において市長賞・京展賞を受賞する。その後も数々の賞を受賞し、1987年第55回独立展に出品した「或る光景」が文化庁買い上げとなる。1988年京都府文化賞功労賞、1989年京都府文化功労者に選出される。その間、1960年京都学芸大学（現京都教育大学）講師、1968年京都精華大学美術学部教授となり、京都工芸繊維大学工芸学部で1985年まで講師を務めた。

本作品は、1950（昭和25）年の本学卒業生から、卒後30周年を記念して寄贈されたものであるが、2017年8月の調査前までの資産台帳には、作品名「比叡」、作者「賀久一面」として登録されていた。しかし、キャンバス左下のサイン「K.Shibata」及び作風から、洋画家の「芝田　耕」の作品と推定したうえで、額装を外しキャンバス裏面を調査した結果、作品名が「明けゆく比叡」と判明し、作者も「芝田　耕」であることが確認できたため、この調査結果を踏まえ、それぞれの名称を改めることとした。

なお、本作品は、愛学館が完成した時から、愛学館7階の応接室に飾られている。

Library News

図 書 館

開館日程

2019年7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2019年8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2019年9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

8:30-21:00　10:00-17:00　8:30-17:00　休館　休館=館内整備

水中でぶつぶつ －第11話－

“松葉憧憬”

学長　後藤 直正

記憶が遠のきつつあるいま、書きつけならんと本話。少々長い、編集担当泣かせの五割増し▲JR大阪駅東口、阪神百貨店の地下に潜る階段を降りた右側に串カツ“松葉”があり、額縁のような各地名産品店が地下道と並行していた。これらの店舗は地下道拡張工事のために立ち退き通告を受けていた。“松葉”は抵抗したものの2015年6月15日虚しく消滅した▲仕事人が行きかう大阪駅周辺はかつての高校生にとって“社会の窓（うぅーん？ まあええか）”、潜ったり、浮上したりしながら社会のダイバシティーを知った。なかでも気になったのは喧騒の奔流に掉さす溜まり場“松葉”。ときを経て行きつけに▲“松葉”は暖簾と人脚で経済水域が示されたカウンター・スタンダップ式。指示された隙間に斜めに半身、上でも下でもなく、左右いずれかで入る。その途端に胸に紺の“松葉”刺繍輝く白上着の店員がアルミ丸皿を置き、あさって見ながら*「なにしょ」。愛想がないのではない。客の背後は逆巻く雑踏の大河、聞き逃さない仕草さである。言葉に応じて飲み物を注文し、雲龍よろしく上目遣いすればソースと油で描かれたアートタオルが見える。串をつまんだ指先の清潔保持、そう“松葉”は潔癖症の巣窟であった▲店員は揚げ立ての串カツをボコボコのアルミボールで運び「ぎゅう、キス、エビ、揚げたて、どう」、カウンター上のコーナーに並べていく。欲する串は断りなくつまんでいい。だがその前に、四角いバットのキャベツの角切りをつまみ、自らの皿に敷きつめる。串カツの衣はソース如きに負けやせぬ、バットのソースに躊躇なくドバっと漬ける、二度はない、余分のソースは敷いたキャベツで切る、さすればキャベツをソースに漬けることもなく、無駄にもならない、エコな所作である。もし、コーナーの串カツが冷めていたら「熱うしてくれる」で、二度揚げがある▲肩の力を抜くときに憚られるが、緊張の“おばちゃん騒動”。もう10年ぐらい前。グルメブームの風に吹かれ“松葉”もグローバルならぬグローカル。そんな風に吹かれた方、“カウンターの中心で「おばちゃん、生中」を叫んだ”。半身で串カツ賞味に勤しむ吾ら、片肘つきうつむき、はたまた宙睨み、「あほ、おばちゃんて言うな、おねぇちゃんやろ」声にせず。案の定「…おばちゃぅん？…」、カウンター同志、戦慄・フリーズ…幾星霜…「おばちゃんかぁー、…うぅーんまあぁ〇〇過ぎたらそう言われてもしゃあないなぁ」で、安堵の風が霜を溶かし、喧騒が星を動かして生中が出た▲スタンダップ式ゆえに長居せず、ちゃっちゃっと終える。「なんぼや」「いくら」「勘定して」の喚起で店員は皿に残された竹串をむんずと握る。竹串は串カツの値段によりけり、長いの、短いの、矢羽、松葉型もあれば、骨が串もあり、店員は串の種類と本数からマジシャン如きに計算し、控えた飲み物代を加え「千と三百二十」と啓示する。一人分この程度。千円札二枚渡せば「ほい六百八十、おおきに」と釣銭がやってくる。釣銭を握りソースと油で賛が書かれた紺地松葉図暖簾を分けて、喧騒奔流の一滴となる▲どこかに復活したとも聞く、総本店も健在、けど、あの“松葉”はもうない。本話を書いている最中に、大阪・京橋の昔話ができるまっちゃんの“ちゅん”も失った。「麦わら帽子は もう消えた たんぼの蛙は もう消えた それでも待ってる」（『夏休み』吉田拓郎作詞・作曲）。さあ、夏休みじゃ。

（お断り）本話中に二次災害防止のための伏せ字があります。詰問は却下。悪しからず

*あさって（明後日）見ながら：大阪語でそっぽ向いて聞くこと。決して将来を見るということではない

2019年度生涯研修プログラムのお知らせ

生涯教育センター

生涯教育センターでは、Facebook、Twitterで研修会情報や国の医療制度の動きなどを発信しています。時々、学内の様子も更新しますので、フォローしていただきますようお願いします。

さて、現在「申込受付中」および受付間近の研修会をご紹介します。皆さんの参加をお待ちしています。

●**「臨床研究支援セミナー」**※申込受付中です

※申込受付期間終了後に欠員があれば学内（本学教職員、4年次生以上）からの参加を受付けます。

「薬剤師による臨床研究～計画立案と研究の進め方の実際～」

薬剤師による臨床研究の基本的知識習得とシーズに着眼する感性養成を目指したセミナーです。日常業務におけるクリニカルクエスチョンを明確にし、臨床試験計画立案と研究の実際例を知ります。またデータの統計的評価と結果解釈をPC演習から学びます。

＊開催日時：2019年9月8日（日）12:00～17:00
＊開催場所：京都薬科大学　臨床薬学教育研究センター2階
＊定員：50名　　＊受講料：5,000円　　＊認定単位：G24 3単位
＊申込受付期間：2019年6月5日（水）～8月26日（月）

開催日時	内容
9/8(日) 12:00～17:00	【講義・全体討論】 ・薬剤師による臨床研究の基本的知識～クリニカルクエスチョンを明確に～ ・薬剤師による臨床試験計画立案と研究の実際例 【PC演習】 ・臨床研究のためのデータ解析～数値の見方、統計的評価と結果の解釈～

●**「第2回フィジカルアセスメントセミナー〈アドバンストコース〉」**

※薬剤師限定のセミナー

※申込受付期間終了後に欠員があれば学内（本学教職員、本学大学院生）からの参加を受付けます。

「磨こう！薬剤師だから気付くフィジカルアセスメント推論力」

多職種連携チーム医療の中で、薬剤師はバイタルサイン情報等をもとに薬学的介入を行い、安全で最適な薬物療法を提供する必要があります。本セミナーでは、患者に見立てたフィジコからのバイタルサイン収集実習、アセスメントから処方提案まで学習します。またフィジカルアセスメント活用例紹介により明日からの実践につなげます。

＊開催日時：2019年11月17日（日）9:30～16:00
＊開催場所：京都薬科大学　臨床薬学教育研究センター2階
＊定員：40名（薬剤師限定）　　＊受講料：10,000円　　＊認定単位：3.5単位(G24)
＊申込受付期間：2019年9月4日（水）～11月4日（月）

開催日時	内容
11/17(日) 9:30-16:00	【講義・実技実習】バイタルサイン情報収集スキル習得 1）フィジカルアセスメントを薬剤師が行う意義を知ろう　2）実際にバイタルサインを収集してみよう 【ランチョンミーティング】 「パルスオキシメーターから病態を把握してみよう。」 【講義・SGD】症例検討 1）症例検討を行うにあたっての基礎知識　2）症例検討を行ってみよう 【講義】実例紹介「私が行っているフィジカルアセスメント」 1）病院薬剤師のフィジカルアセスメント　2）薬局薬剤師のフィジカルアセスメント

●**申込方法**

生涯教育センターホームページより
お申込みください。（URL：https://skc.kyoto-phu.ac.jp/）

生涯教育センター
トップページ

2019臨床研究支援
ｾﾐﾅｰ申込ﾍﾟｰｼﾞ

2019第2回ﾌｨｼﾞｶﾙ
ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ申込ﾍﾟｰｼﾞ

■**問合せ先**

京都薬科大学　生涯教育センター
＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp
＊TEL: 075-595-4677（平日9:00～16:00）
＊FAX：075-595-4683

Facebook　Twitter

NEWS クラブだより

■合唱部（ユーベルコール）

昨年は、「第54回京都合唱祭」、「第14回コーラスフェスティバル」の出演、そして京薬祭にてミニコンサートを開催しました。また「安朱学区安心・安全パレード」や「健康すこやか花まつり」で発表するなど地域の高齢者を対象としたイベントに参加し、合唱を通じて地域貢献活動も行いました。

OB・OGの方や山科区の地域の皆さんのおかげで、三年連続で京都合唱祭に出場するなど発表の機会も増えました。

今年はより一層の活動や発表を行います。

〈今後の活動予定〉

10月　第15回コーラスフェスティバルin山科・醍醐出演
11月　京薬祭にてミニコンサート
3月　卒業式での学歌斉唱

和気あいあいと楽しく活動しています、是非私たちの歌声を聴きに来てください。

■マンドリン部

こんにちは、マンドリン部です。マンドリン部はマンドリン、マンドラ、マンドセロ、クラシックギター、コントラバスの五種の楽器でオーケストラを組み演奏しています。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、部員同士で協力し、技術顧問の先生の指導を受けるなど意欲的に取り組んでいます。現在は第91回定期演奏会に向けて、日々練習中です。

そして、今年も8月上旬に、4泊5日の夏合宿を滋賀県にて予定しています。この合宿で演奏技術を高め、より良い演奏に繋げたいと思います。練習だけでなく息抜きの時間も設け、充実した日々を過ごしたいです。定期演奏会の日時・場所等についてはTwitterなどで情報発信を行うので、是非ご覧下さい。→@kpu_mandolin

■漢方医学研究部

～2019年度 年間予定表～

4月　新歓期間
　　総会
5月　確定新歓（入部した新入生と食事会等）
　　漢方基礎講座
6月　遠足
9月　合宿
10月　薬膳料理会
11月　学祭
　　運営幹部交代
12月　忘年会
3月　新歓準備

■ 管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。私達は、11月30日に長岡京記念文化会館で行われる第47回定期演奏会に向けて、日々楽しく練習に励んでいます。

4月の新歓では、学部生が一丸となって新歓活動を頑張った甲斐もあり、20名を超える新入生が入部してくれました。練習はより一層明るく賑やかになり、皆で和気あいあいと音楽を楽しんでいます。

夏休みには長野への夏合宿も予定しています。夏を超えた頃には、一回りスケールアップした音楽を奏でられるよう部員一同精一杯頑張りますので、これからも管弦楽部の活動にご注目頂けると幸いです。

管弦楽部はホームページでも情報を発信しています。ぜひ「京都薬科大学管弦楽団」で検索してみてください♪

「飲酒マナーセミナー」を実施しました

Event

学生課

本学のクラブ・サークルに対して、世間でよくニュースになっている未成年者飲酒における事故や飲酒運転事故、アルコールハラスメントが発生しないよう、2018年に引き続きキリンビール滋賀工場から講師をお招きし、セミナーを開催しました。

当日は、適正飲酒や飲酒事故についての講演に加え、アルコールパッチテストを実施し参加学生各自のアルコール体質を知っていただく機会を設けました。

体質的にアルコールを全く受け付けられない方々が、その体質を知らずにお酒を飲んで気分が悪くなる、対処方法が分からずに急性アルコール中毒になる、最悪の場合は死に至るというケースが後を絶ちません。

本学においても、継続的に学生へ飲酒に対する正しい知識を伝え、飲酒に関する事故が発生しないよう啓発を行います。

セミナーの様子

2019年度 試験関係日程

教務課

《試験日程》

2019年度の試験日程は【表1】のとおりです。シラバスをよく読み、各学年とも進級・卒業要件を確認してください。時折、試験日時を間違うケースが見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

再試験の受験手続は、必ず指定の手続期間に行ってください。手続時に発行する再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないように大切に保管してください。万が一紛失した場合は、再試験受験までに教務課で再発行を受けてください。

人と文化選択科目の不合格科目については、再試験手続をしなかった場合、放棄とみなします。放棄科目については、履修した年度内は平均点に算入されますが、翌年度以降は平均点の算出対象外となります。

manabaの掲示板内コンテンツに掲示している「学修の手引き」にも、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでください。

【表1】

年	試　験	試験期間	合格発表等	手続期間
2019	1～4、6年次生　前期試験	7月23日(火)～8月1日(木)	8月21日(水)に発表予定 (Web公開)	－
	2～4年次生　前年次科目再試験	8月29日(木)～9月3日(火)	成績通知書を配付	4月18日(木)・19日(金)
	1～4年次生　前期科目再試験	9月5日(木)～11日(水)	成績通知書を配付	8月22日(木)・23日(金)
	6年次生　前期科目再試験Ⅰ	8月29日(木)～9月3日(火)	9月12日(木)に発表予定 (Web公開)	8月22日(木)・23日(金)
	6年次生　前期科目再試験Ⅱ	9月19日(木)・20日(金)	成績通知書を配付	9月13日(金)・17日(火)
	4年次生　薬学共用試験／OSCE本試験	12月14日(土)・15日(日)	発表・手続方法については掲示等でお知らせします	
2020	6年次生　アドバンスト薬学本試験	1月8日(水)・9日(木)	1月17日(金)に発表予定 (Web公開)	－
	4年次生　後期試験	1月15日(水)～17日(金)	1月27日(月)に発表予定 (Web公開)	－
	1～3年次生　後期試験	1月17日(金)～27日(月)	2月10日(月)に発表予定 (Web公開)	－
	4年次生　薬学共用試験／CBT本試験	1月23日(木)・24日(金) ※いずれか1日を受験	発表・手続方法については掲示等でお知らせします	
	6年次生　アドバンスト薬学再試験	1月29日(水)・30日(木)	卒業査定会終了後に 成績通知書を配付	1月20日(月)・21日(火)
	4年次生　後期科目再試験	2月4日(火)～2月6日(木)	2月14日(金)に発表予定 (Web公開)	1月28日(火)・29日(水)
	1～3年次生　後期科目再試験	2月20日(木)～28日(金)	進級査定会終了後に 成績通知書を配付	2月12日(水)・13日(木)
	4年次生　前・後期科目再試験Ⅱ			【前期科目】1月28日(火)・29日(水) 【後期科目】2月17日(月)・18日(火)
	4年次生　薬学共用試験／CBT追・再試験	3月3日(火)	発表・手続方法については掲示等でお知らせします	
	4年次生　薬学共用試験／OSCE追・再試験	3月5日(木)		

《成績通知・合格発表日程》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から、3～6年次生は分野等主任から、学生証提示の上、受け取ってください。代理受取はできません。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区　分	年　次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の成績通知書	1～4年次生	10月1日(火)～8日(火)	10月下旬
	6年次生	10月4日(金)～11日(金)	
後期終了時の成績通知書	6年次生	2月13日(木)～ (卒業査定会終了後に配付)	－
	1～5年次生	3月17日(火)～ (進級査定会終了後に配付)	4月中旬～下旬

NEWS 人　事

採用

基礎科学系 一般教育分野　講師 岸野 亮示
生命薬科学系 微生物・感染制御学分野
助教 鴨志田 剛
（以上 任期：2019.4.1～2024.3.31）

事務局情報管理推進室　主事 太田 周人
事務局企画・広報課　事務員 中村 洸稀
事務局教務課　事務員 林　貴志
（以上 2019.4.1付）

任命

創薬科学フロンティア研究センター長
教授 山下 正行
臨床薬学教育研究センター長　教授 矢野 義孝
共同利用機器センター長　教授 古田　巧
創薬科学系長　教授 松田 久司
生命薬科学系長　教授 芦原 英司
病態薬科学系長　教授 加藤 伸一
医療薬科学系長　教授 西口 工司
基礎科学系長　教授 有本　收
（以上　任期：2019.4.1～2021.3.31）

配置換

事務局教務課　主事 北田　彩
（前 事務局企画・広報課）
（以上 2019.4.1付）

再任用

薬学教育系 教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター　教授 矢野 義孝
病態薬科学系 薬理学分野　准教授 藤井 正徳
基礎科学系 健康科学分野　准教授 長澤 吉則
分析薬科学系 薬品物理化学分野　助教 扇田 隆司
薬学教育系 教育研究総合センター
学生実習支援センター　助教 髙尾 郁子
（以上任期：2019.4.1～2024.3.31）

退職

薬学教育系 教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター　講師 本橋 秀之
講師 河野 修治
薬学教育系 教育研究総合センター
学生実習支援センター　助手 大谷 有佳
（以上2019.3.31付）

2019年度KPU NEWS編集委員は下記の皆さんにお願いすることとなりました

＜委員長＞
藤原　洋一（教　授）

＜委員（教育職員）＞
小田　真隆（教　授）
藤室　雅弘（教　授）
長谷川功紀（准教授）
地嵜　悠吾（助　教）

＜委員（事務職員）＞
川勝　章広（企画・広報課長）
髙野　江里（学生課長）

＜委員（学生）＞
江川　季生（4年次）
大草由佳子（4年次）
小山　未来（4年次）
島　千晶（4年次）

2020年度 京都薬科大学入学試験について（概要）

入試課

2020年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。受験生や高校生向「大学案内」「DATA BOOK」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1．入学定員・募集人員

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

	特別選抜		一般選抜		
	推薦入学				
	指定校制	一般公募制	一般Ａ方式（センター前期）	一般Ｂ方式（一般入試）	一般Ｃ方式（センター後期）
募集人員（　）：昨年度値	50名	80名	45名	180名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2020年3月卒業見込者および2019年3月卒業者※ 評定平均値3.2以上	2020年3月卒業見込者 および 既卒者		

※文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2019年3月修了者および2019年4月以降2020年3月末までに修了または修了見込者を含みます。〈出願資格については、それぞれの入学試験要項で確認してください〉

2．入学試験関係日程

	推薦入学		一般Ａ方式	一般Ｂ方式	一般Ｃ方式
	指定校制	一般公募制	センター前期（個別試験なし）	一般入試	センター後期（個別試験なし）
出願期間	2019年11月1日（金）～2019年11月7日（木）必着	2019年11月1日（金）～2019年11月7日（木）当日消印有効	2020年1月6日（月）～2020年1月17日（金）当日消印有効	2020年1月6日（月）～2020年1月22日（水）当日消印有効	2020年2月21日（金）～2020年3月6日（金）当日消印有効
試験日	2019年11月11日（月）	2019年11月16日（土）	2020年1月18日（土） 2020年1月19日（日）	2020年2月3日（月）	2020年1月18日（土） 2020年1月19日（日）
合格発表日	2019年11月26日（火）		2020年2月14日（金）	2020年2月14日（金）	2020年3月13日（金）
入学手続期限	2019年12月13日（金）　必着 入学金・授業料（前期分）納付期限 入学手続書類等提出期限		2020年2月21日（金）（入学金納付期限）	2020年2月21日（金）（入学金納付期限）	2020年3月23日（月）（入学金納付期限）
			2020年3月23日（月）必着 授業料（前期分）納付期限 入学手続書類等提出期限		

3．検査項目等

推薦入学（指定校制）
面接および調査書を基に総合的に判定します。

推薦入学（一般公募制）	配点
適性検査 Ⅰ：英語 ［コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ］	100
Ⅱ：化学［化学基礎、化学］	100
面接	40
調査書（国語と数学の評定平均値の合計×2）	20
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがあります。	

	一般Ａ方式（センター前期）	配点
数学	数学Ⅰ・数学Ａ、数学Ⅱ・数学Ｂ	200
外国語	英語［リスニングの成績は利用しません］	200
国語	国語［近代以降の文章のみ利用します］	100
理科	化学［必須］、物理、生物から1科目［選択］	200

	一般Ｂ方式（一般入試）	配点
数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B［数列、ベクトル］	200
外国語	英語 ［コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ］	200
理科	化学基礎、化学	200

	一般Ｃ方式（センター後期）	配点
数学	数学Ⅰ・数学Ａ、数学Ⅱ・数学Ｂ	200
外国語	英語［リスニングの成績は利用しません］	200
理科	化学［必須］、物理、生物から1科目［選択］	200

4．試験場
京都薬科大学キャンパスおよび大阪国際交流センター
【詳細については入学試験要項をご確認下さい】

お問い合せ：〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5　京都薬科大学　入試課
℡ 075-595-4678 / FAX 075-583-2232 / ホームページ https://www.kyoto-phu.ac.jp

2020年度大学院入学選考概要

薬学専攻博士課程および薬科学専攻博士後期課程

入試課

		薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備　　考
募集人員		(一般入試、社会人入試)　10名	(一般入試、社会人入試)　2名	
募集分野等		(募集分野等、協力分野)　24分野等	(募集分野、協力分野)　14分野	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格		(1)大学(6年制薬学部)を卒業した者(2020年3月末日までに卒業見込者を含む) (2)外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者(2020年3月末日までに修了見込者を含む) (3)大学(4年制薬学部)を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において２年以上の実務経験を有し、かつ、薬剤師免許を有している者で、本学大学院における入学資格審査において、第１号の者と同等以上の学力があると認めた者 (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、第１号の者と同等以上の学力があると認めた者	(1)薬学系(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科系の修士の学位を有する者(2020年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (2)外国において前号と同等の修士の学位に相当する学位を有する者(2020年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (3)大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において２年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、本学大学院における入学資格審査において、第１号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者 (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、第１号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者	〈薬学専攻〉募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、衛生化学分野 微生物･感染制御学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 病態生化学分野、薬物治療学分野 臨床薬理学分野、薬理学分野 臨床腫瘍学分野、薬剤学分野 薬物動態学分野、臨床薬学分野 臨床薬剤疫学分野、統合薬科学系 臨床薬学教育研究センター (協力分野) 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 公衆衛生学分野 〈薬科学専攻〉募集分野 薬化学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品物理化学分野 公衆衛生学分野 (協力分野) 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 薬理学分野、薬剤学分野、統合薬科学系
主な出願書類		(1)入学願書 (2)成績証明書※1 (3)卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可)※2 (4)志願者名票・受験票 (5)出願資格(3)の者は薬剤師免許の写し (6)卒業・修了(見込)証明書※1 (7)出願資格(2)の者は住民票※3	(1)入学願書 (2)成績証明書※1 (3)修士論文及び修士論文の要旨(英文可)※2 (4)志願者名票・受験票 (5)研究業績録 (6)修了(見込)証明書※1 (7)出願資格(2)の者は住民票※3	※1　本学卒業・修了(見込)者を除く ※2　卒業・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※3　学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集)　2019年7月 5日(金)　～　2019年7月19日(金)　[必着] (冬季募集)　2020年1月 8日(水)　～　2020年1月15日(水)　[必着]		
	試験日	(夏季募集)　2019年8月20日(火) (冬季募集)　2020年1月28日(火)		
	合格発表日	(夏季募集)　2019年8月26日(月) (冬季募集)　2020年1月28日(火)		
	入学手続期限	2020年3月13日(金) 入学金納付期限 授業料前期分納付期限,入学手続書類提出期限		
選考	面接試問	専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課　〒607-8414　京都市山科区御陵中内町5　TEL075-595-4678

2020年度大学院入学選考概要

薬科学専攻博士前期課程

入試課

		一　般　入　試	社　会　人　入　試	備　　考
募集人員		5　名		(募集分野) 薬化学分野、薬品製造学分野 薬品化学分野、生薬学分野 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 細胞生物学分野、生化学分野 病態生理学分野、薬理学分野 薬剤学分野、統合薬科学系
		若干名	若干名	
募集分野		薬科学専攻　14分野	薬科学専攻　14分野	
出願資格		(1)大学を卒業した者(2020年3月末日までに卒業見込者を含む) (2)2020年3月末日において大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる者 (3)外国において学校教育における16年の課程を修了した者(2020年3月末日までに修了見込者を含む) (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において1年以上の実務経験を有する者	
主な出願書類		(1)入学願書 (2)成績証明書※1 (3)志願理由書 (4)志願者名票・受験票 (5)出願資格(3)の者は住民票※2 (6)卒業(見込)証明書※1	(1)入学願書 (2)成績証明書※1 (3)志願理由書 (4)志願者名票・受験票 (5)実務実績書 (6)卒業証明書※1	※1　本学卒業・修了(見込)者を除く ※2　学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。 その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集)　2019年7月5日(金)～2019年7月19日(金)　[必着] (冬季募集)　2020年1月16日(木)～2020年1月23日(木)　[必着]		
	試験日	(夏季募集)　2019年8月20日(火) (冬季募集)　2020年2月14日(金)		
	合格発表日	(夏季募集)　2019年8月26日(月) (冬季募集)　2020年2月19日(水)		
	入学手続期限	2020年3月13日(金)入学金納付期限 授業料前期分納付期限,入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	――――	
	薬学専門	Ⅰ～Ⅵ系*の14問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)		* Ⅰ系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野 薬品化学分野、生薬学分野 Ⅱ系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野 薬品物理化学分野 Ⅲ系 生命薬科学系 公衆衛生学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 Ⅳ系 病態薬科学系 薬理学分野 Ⅴ系 医療薬科学系 薬剤学分野 Ⅵ系 統合薬科学系
	小論文他	――――	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課　〒607-8414　京都市山科区御陵中内町5　TEL075-595-4678

2018年度 決算について

Report.

事務局長　山下 馨

学校法人京都薬科大学2018年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、2019年5月17日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議員会に報告されました。

2018年度は、第3期中期計画の2年目にあたり、諸事業を展開するためのアクション・プランに基づき、順次取組んでいます。実行した主な事業は、教員評価制度導入に向けたシステムの整備やグループウェア（サイボウズ）及びOffice365などを活用した情報管理基盤の整備、また、LED照明器具への更新工事等による光熱水費の削減に向けた取組や2025委員会を中心とした京薬ブランドを高めるためのより実効的な広報戦略の策定及び実施に向けた取組等です。

一方、収入面においては、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に採択されたほか、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」、「私立学校施設整備費補助金」、「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」等の補助金を獲得しています。

■2018年度資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度に行った諸活動に対応するすべての資金の動き（収入と支出の内容）を表すものです。

（単位　千円）

	科目	予算	決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,263,600	4,299,448	△ 35,848
	手数料収入	84,200	86,654	△ 2,454
	寄付金収入	40,000	48,882	△ 8,882
	補助金収入	519,200	440,645	78,554
	資産売却収入	1,499,200	1,499,250	△ 50
	付随事業・収益事業収入	23,400	36,633	△ 13,233
	受取利息・配当金収入	168,700	164,399	4,300
	雑収入	51,300	68,796	△ 17,496
	前受金収入	575,200	561,605	13,594
	その他の収入	2,320,900	2,345,459	△ 24,559
	資金収入調整勘定	△ 681,600	△ 663,592	△ 18,007
	前年度繰越支払資金	3,395,500	3,495,683	△ 100,183
	収入の部合計	12,259,600	12,383,864	△ 124,264
支出の部	人件費支出	2,003,300	1,862,046	141,253
	教育研究経費支出	1,537,200	1,430,169	107,030
	管理経費支出	451,700	362,389	89,310
	施設関係支出	99,500	95,687	3,812
	設備関係支出	455,600	332,828	122,771
	資産運用支出	3,795,600	3,795,956	△ 356
	その他の支出	860,100	917,961	△ 57,861
	予備費	20,000		20,000
	資金支出調整勘定	△ 262,800	△ 321,790	58,990
	翌年度繰越支払資金	3,299,400	3,908,615	△ 609,215
	支出の部合計	12,259,600	12,383,864	△ 124,264

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

資金収支（収入の部）

学生生徒等納付金収入は、予算額を上回り4,299百万円になりました。手数料収入、寄附金収入、雑収入も予算額を上回っています。また、資産売却収入は国債の満期償還分となり、予算どおりとなっています。

一方、補助金収入は、一般補助金、施設整備費補助金が当初の見込みより減となったため、予算額を大幅に下回る440百万円となりました。対前年比で見ると、一般補助金が43百万円の減となりましたが、特別補助金は私立大学研究ブランディング事業に採択されたことにより19百万円の増となりました。

付随事業・収益事業収入は、受託事業、共同研究共に契約件数が増加し、予算額を上回りました。

資金収支（支出の部）

人件費は、退職者が予想より多かったことに加え、当初計画どおりの採用・補充ができなかったため、1,862百万円と予算額を下回りました。教育研究経費は、研究費の繰越し等による未執行分や、業務委託等の減少により、予算額を下回り1,430百万円となりました。管理経費支出も予算額を下回り362百万円となりました。施設関係支出では、本校地北側の土地の購入、統合薬科学系研究室の什器設置工事、南風館、共同利用機器センター実験什器設置工事、愛学館防災計画電気工事等で、95百万円となりました。設備関係支出では、予算額を122百万円下回り332百万円となっています。資産運用支出は、組入計画に基づく組入や、資産運用収入の繰入、国債の満期償還分の繰入などで、3,795百万円となりました。

以上により、翌年度繰越支払資金は、3,908百万円となりました。

■ 2018年度事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度（4月1日～翌年3月31日）の経常的活動（教育活動収支、教育活動外収支）及び臨時的活動（特別収支）を区分して、それぞれの事業活動収入と事業活動支出の内容及び基本金組入後の収支均衡の状況を明らかにするものです。また、資金収支計算書はすべての資金の動きを明らかにするものですが、事業活動収支計算書には、資金の収支を伴わない「現物寄付」、「減価償却額」、「退職給与引当金組入額」なども含めた事業活動収支の状況について把握することを目的としています。

（単位 千円）

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,263,600	4,299,448	△ 35,848
		手数料	84,200	86,654	△ 2,454
		寄付金	40,000	48,882	△ 8,882
		経常費等補助金	436,400	413,804	22,595
		付随事業収入	23,400	36,633	△ 13,233
		雑収入	51,300	69,521	△ 18,221
		教育活動収入計	4,898,900	4,954,943	△ 56,043
	事業活動支出の部	人件費	1,979,300	1,851,509	127,790
		教育研究経費	2,227,900	2,100,952	126,947
		管理経費	559,200	462,850	96,349
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	4,766,400	4,415,313	351,086
	教育活動収支差額		132,500	539,630	△ 407,130
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	168,700	164,399	4,300
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	168,700	164,399	4,300
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		168,700	164,399	4,300
経常収支差額			301,200	704,029	△ 402,829
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	92,800	59,677	33,122
		特別収入計	92,800	59,677	33,122
	事業活動支出の部	資産処分差額	10,000	9,561	438
		その他の特別支出	0	1,770	△ 1,770
		特別支出計	10,000	11,331	△ 1,331
	特別収支差額		82,800	48,345	34,454
〔予備費〕			20,000		20,000
基本金組入前当年度収支差額			364,000	752,374	△ 388,374
基本金組入額合計			△ 767,600	△ 539,282	△ 228,317
当年度収支差額			△ 403,600	213,092	△ 616,692
前年度繰越収支差額			944,300	980,056	△ 35,756
基本金取崩額			0	0	0
翌年度繰越収支差額			540,700	1,193,148	△ 652,448

（参考）

事業活動収入計	5,160,400	5,179,019	△ 18,619
事業活動支出計	4,796,400	4,426,644	369,755

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

教育活動収支

「教育活動収支」は、学校法人の本業である教育研究事業の収支を表しています。

学生生徒等納付金収入（4,299百万円）の経常収入（5,119百万円）に占める割合（学生生徒等納付金比率）は84.0%で、補助金収入（413百万円）の経常収入に占める割合8.1%（補助金比率）と合わせると92.1%となり、本学の収入の大部分を占めています。

教育活動収支における事業活動支出においては、人件費（1,851百万円）の経常収入に占める割合（人件費比率）は36.2%です。また、教育研究経費は2,100百万円となり、経常収入に占める割合（教育研究経費比率）は41.0%となりました。

教育活動外収支

「教育活動外収支」は、経常的な収支のうち教育活動以外の収支で主に財務活動の収支を表しています。

本学は、債券、投資信託、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は164百万円となりました。経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は704百万円となり、経常収支差額比率（経常収入に占める経常収支差額の割合）は13.8%となりました。

特別収支

「特別収支」（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支）の特別収支差額（特別収入－特別支出）は48百万円となりました。

事業活動収支差額比率

事業活動収入は、5,179百万円、事業活動支出は4,426百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は、752百万円、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は14.5%となりました。

基本金の組入れと翌年度繰越収支差額

基本金は、第1号基本金に16百万円、第2号基本金には、教育研究総合センター等の整備費として504百万円を組入れました。また、第3号基本金には奨学基金に10百万円、第4号基本金には7百万円を組入れるなど、計539百万円の基本金組入となりました。この結果、当年度収支差額は213百万円となり、前年度からの収入超過額980百万円を加え、翌年度繰越収支差額は1,193百万円となりました。

■ 2018年度貸借対照表

貸借対照表は、決算時における資産、負債、基本金及び収支差額を把握するもので、教育研究に必要な財産を適正かつ安全に保持しているかどうかの財政状態を確認するためのものです。

（単位：千円）

科目		本年度末	前年度末	増減
資産の部	固定資産	32,286,052	32,009,110	276,942
	有形固定資産	13,754,989	14,067,524	△ 312,534
	特定資産	18,495,515	17,893,197	602,318
	その他の固定資産	35,547	48,387	△ 12,840
	流動資産	4,050,934	3,609,536	441,397
	資産の部合計	36,336,986	35,618,647	718,339
負債の部	固定負債	880,155	890,691	△ 10,536
	流動負債	862,232	885,731	△ 23,498
	負債の部合計	1,742,387	1,776,422	△ 34,035
純資産の部	基本金	33,401,450	32,862,167	539,282
	繰越収支差額	1,193,148	980,056	213,092
	純資産の部合計	34,594,599	33,842,224	752,374
負債及び純資産の部合計		36,336,986	35,618,647	718,339

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

資産の部

有形固定資産は、設備整備や教育研究用機器備品の購入よりも、減価償却額が多かったため、前年比312百万円減の13,754百万円、特定資産は、第2号基本金引当特定資産の計画的組入等により、前年比602百万円増の18,495百万円となりました。また、流動資産は、前年比441百万円増の4,050百万円となり、その結果、資産の部合計は36,336百万円となり、718百万円の増加となりました。

負債の部

負債のうち、固定負債880百万円は退職給与引当金を計上しています。流動負債862百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,742百万円となりました。

純資産の部

基本金539百万円を組入れ、基本金の合計は33,401百万円となりました。繰越収支差額は1,193百万円となり、その結果、純資産の部合計は前年比752百万円増の34,594百万円となりました。

以上

NEWS お知らせ

■ 2019年度 入学宣誓式を挙行しました

2019年度京都薬科大学入学宣誓式を、4月2日（火）午前10時から創立130周年記念館で挙行しました。

2019年度新入生数は、薬学部薬学科366名、大学院薬学研究科薬学専攻博士課程9名です。

当日の学長式辞は、本学Webサイト新着情報に掲載しています。

平成31年度科学研究費助成事業 採択状況

Report.

副学長（研究科長）　赤路 健一

本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む。）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構（AMED）などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

下表には代表者のみ記載していて、分担者として共同研究をしている場合は含まれていません。平成31年度は、新規で36件申請して11件が採択されました（新規採択率30.5%）。前年度からの継続分とあわせると、合計採択件数は45件、平成31年度交付予定総額は　76,190千円となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。挑戦的研究（萌芽）は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額（千円）	新規・継続
基盤研究(B)	勝見　英正	薬剤学分野	19H04473	骨転移の診断・治療の効率化を目指したセラノスティクス型骨標的化ナノ薬物担体の開発	5,590	新規
基盤研究(B)	小田　真隆	微生物・感染制御学分野	18H02657	新規水溶性糖脂質の細菌性肺炎制御における有効性とそのメカニズムの解明	2,730	継続
基盤研究(B)	濱　進	薬品物理化学分野	18H03540	新規ステルス機能素子によるナノ粒子表面改質と癌微小環境制圧核酸キャリアーの開発	4,680	継続
基盤研究(B)	古田　巧	薬化学分野	18H02554	脂肪族アルデヒドの直接的不斉交差アルドール反応の新展開	2,990	継続
基盤研究(B)	斎藤　博幸	薬品物理化学分野	17H03979	アポリポタンパク質の構造異常によるアミロイド繊維形成の分子機構解明と制御法の開発	3,510	継続
基盤研究(B)	赤路　健一	薬品化学分野	16H05104	基質配列の非ペプチド化に基づくプロテアーゼ阻害剤設計戦略の開拓	2,600	継続
基盤研究(C)	坂本　尚志	一般教育分野	19K00048	『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』—60年代フランスにおける学知と革命	1,690	新規
基盤研究(C)	中山　祐治	生化学分野	19K07055	受容体型チロシンキナーゼによる細胞分裂制御機構の解明	1,560	新規
基盤研究(C)	松本　健次郎	薬物治療学分野	19K07109	腸、脳に発現するTRPM8チャネルを標的とした過敏性腸症候群の治療	1,300	新規
基盤研究(C)	藤井　正徳	薬理学分野	19K07333	アトピー性皮膚炎マウスにおける痒み行動増悪の脳内メカニズムの解明	1,950	新規
基盤研究(C)	西村　周泰	統合薬科学系	19K07854	中脳神経回路網の機能再生を目指した新規治療戦略の確立	1,560	新規
基盤研究(C)	芦原　英司	病態生理学分野	19K08826	細胞指向性送達理論に基づくエクソソーム捕捉型核酸医薬による多発性骨髄腫治療の開発	1,170	新規
基盤研究(C)	松村　千佳子	臨床薬学教育研究センター	19K10546	早期から終末期における緩和ケアの質向上をめざした薬学的支援方法の確立	1,300	新規
基盤研究(C)	武上　茂彦	薬品分析学分野	18K06612	超高感度酵素アッセイシステムの構築を目指した新規脂質ナノ粒子発光デバイスの開発	1,430	継続
基盤研究(C)	藤室　雅弘	細胞生物学分野	18K06642	膜蛋白質の発現制御を標的とするKSHV分子海賊機構	1,300	継続
基盤研究(C)	齊藤　洋平	生化学分野	18K06672	熱ストレスによるStat3活性化と癌悪性化の可能性	1,170	継続
基盤研究(C)	河下　映里	病態生化学分野	18K06708	脳神経再生の高効率化を目指したプロテアーゼ活性制御による移植細胞の生着性の向上	1,690	継続
基盤研究(C)	伊藤　由佳子	薬物動態学分野	18K06765	リキッドバイオプシーによる膵癌化学療法の治療最適化システム	1,430	継続
基盤研究(C)	山本　昌	薬剤学分野	18K06803	アルツハイマー型認知症治療を目指したインスリン経鼻投与後の新規脳内送達法の開発	1,300	継続
基盤研究(C)	栄田　敏之	薬物動態学分野	18K06804	SGLT2 阻害剤による重篤な皮膚障害の発症メカニズムの解明と予防／治療法の探索	1,430	継続
基盤研究(C)	石原　慶一	病態生化学分野	18K06940	血管機能異常と炎症亢進に着目したダウン症の脳発達遅延機構の解析	1,560	継続
基盤研究(C)	村木　優一	臨床薬剤疫学分野	18K09957	情報源に依存せず、簡便に医薬品の使用状況は見える化できるのか？	1,300	継続
基盤研究(C)	野崎　亜紀子	一般教育分野	17K03331	正義論としての集合的意思決定論	1,430	継続
基盤研究(C)	秋葉　聡	病態生化学分野	17K08322	IVA型ホスホリパーゼA2活性の細胞種選択的制御によるNASH新規治療戦略の確立	1,170	継続
基盤研究(C)	中村　誠宏	生薬学分野	17K08354	天然薬物を素材としたがん放射線治療における副作用軽減薬の開発	1,560	継続
基盤研究(C)	渡辺　徹志	公衆衛生学分野	17K08396	大気中のバイオエアロゾルと喘息増悪の関係の解明	1,430	継続
基盤研究(C)	長谷川　功紀	共同利用機器センター	17K08749	エストロジェン受容体発現量による予後・治療効果予測法の開発	1,170	継続
基盤研究(C)	木村　寛之	代謝分析学分野	17K10377	線維芽細胞増殖因子受容体を標的としたがんの質的診断用イメージングプローブの開発	1,300	継続
基盤研究(C)	細木　誠之	病態生理学分野	17K08545	COPDにおけるイオン輸送体を分子標的とした気道粘液線毛輸送系活性化療法の開発	1,430	継続
基盤研究(C)	小島　直人	薬品製造学分野	16K08330	新規抗がん剤の創製を指向したアセトゲニン誘導体のTHF環部分の構造活性相関研究	1,170	継続
若手研究	浜田　翔平	薬化学分野	19K16327	ニトロキシル型酸化触媒による第二級水酸基選択的酸化反応の開発	2,730	新規
若手研究	地嵜　悠吾	臨床薬学教育研究センター	19K16428	数理モデルを用いたインフルエンザの流行と治療法の評価	910	新規
若手研究	峯垣　哲也	臨床薬学分野	19K16459	がん微小環境による抗がん剤耐性メカニズムの変化とその克服法の解明	1,560	新規
若手研究	小西　敦子	薬品分析学分野	18K14891	非侵襲的生体成分モニタリングを目指した分子鋳型イオン液体ゲルセンサーの開発	780	継続
若手研究	渡部　匡史	細胞生物学分野	18K14910	がんウイルスが独自にコードする転写開始前複合体のウイルス生存戦略における意義	1,950	継続
若手研究	森下　将輝	薬剤学分野	18K14928	プロバイオティクス由来膜小胞の機能解明と制御に基づく炎症性腸疾患の新規治療法開発	1,950	継続
若手研究	河渕　真治	薬物動態学分野	18K14963	PK-PDモデルを用いたスペシャルポピュレーションへの抗がん剤至適投与法の確立	1,820	継続
若手研究	丹羽　里実	薬理学分野	18K14994	前立腺癌の去勢抵抗性獲得におけるカリウムチャネル発現変動の機序解明と臨床応用	1,300	継続
若手研究	屋木　祐亮	代謝分析学分野	18K15566	前立腺がん患者に対するRadio-Theranostics用分子プローブの開発	1,040	継続
若手研究	有光　健治	代謝分析学分野	18K15608	膵β細胞のインスリン分泌障害を早期に検出する分子イメージングプローブの開発	800	継続
若手研究	朝比奈　裕子	一般教育分野	18K14337	光感受性ナノポア形成能をもつ人工BAXタンパク質の構築	1,950	継続
若手研究(B)	松本　崇宏	公衆衛生学分野	17K15473	トリテルペンに着目した抗遺伝毒性物質の探索研究	1,300	継続

【寄稿】ミャンマーでの医療ボランティアに参加して

Report

■ 3年次生　東（あずま）　咲希（さき）

発展途上国の医療って日本とどう違うのだろう？そんな小さな疑問から、2018年8月末の6日間、私はミャンマーへ医療ボランティアに行きました。現地ではNPO法人ジャパンハートが経営する病院で、患者さんのバイタルチェックや手術前後の患者さんのケア、実際に手術を見学するなど、主に看護師さんのお手伝いをしました。

現地病院での病棟の様子

初めて目の当たりにする発展途上国の医療の現状は、想像よりはるかに厳しいものでした。蛇口からは泥水しか出ず、病院の環境もお世辞にもいいとは言えません。しかし「ここの病院はきれいで快適だ。」と患者さんから言われ、日本の衛生環境の良さや医療水準の高さを改めて感じました。

保険制度の整っていないミャンマーでは、医療費は高額です。加えて大きな病院は国内に数ヵ所しかなく、貧しい農村地域の人々は、医療を受けることが難しい。このような理由から、全ての人々にほぼ無償で治療を行っているこの病院には、ミャンマー全土から多くの患者さんが藁にもすがる思いで来ています。まだ医療に関する資格を持たない私に何ができるのか、と悩むこともとても多くありました。しかし、手術を控えた患者さんに寄り添う中で、「日本語はもちろんミャンマー語も読めないが、手紙を書いてほしい。一生の宝物にする。」「手術のお守りにするから写真を撮ってほしい。」などと患者さんに言ってもらうことがありました。こんな未熟な私でも患者さんの役に立つことができるんだと嬉しく思い、勇気を出してミャンマーまで来てよかったなと思ったと同時に、元気を与えに来たはずの自分が元気をもらっていたことに気づきました。

今回参加したNPO法人ジャパンハートや、その学生組織であるHEART'sでは、ミャンマーやカンボジアでの医療ボランティアをはじめ、国内での交流会など様々な活動を行っています。現地に実際に行ってみなければわからないことや、違う視点に立たなければ見えてこないことがたくさんありました。国際医療に興味がある方は、ぜひ一度現地で発展途上国の医療を実際に体感してみてください。

子どもの患者さんと共に（▼：筆者）

NEWS　教育後援会からのお知らせ

学生課

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を寄贈しました。実務実習前の事前学習として活用することができ、大変喜ばれています。

また、今年度実務実習に臨む5年次生を対象に白衣授与式が行われ、学生1人につき大学名入りの白衣2着が授与されました。2着のうち、1着は大学、もう1着は教育後援会で補助しています。

なお、例年通り10月に教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご案内させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。［開催日：2019年10月5日（土）T31講義室　予定］

【寄稿】OIST SCIENCE CHALLENGE 2019 に参加して

Report

■ 5年次生　吉岡（よしおか）　希恵（きえ）

私は3月9日から3月16日の1週間、沖縄科学技術大学院大学(OIST)で行われたOIST science challenge に参加した。約900人の応募から32人が選抜されこのプログラムに参加した。毎日のプログラムは朝の9時から夜の7時くらいまでぎっしり予定が詰まっており、さらに公用語は英語、選抜されたメンバーは東京大学をはじめ名だたる大学の人ばかり、正直不安は大きかった。しかしプログラムが始まるとそんなことを考える暇もないほど刺激的な毎日で、勉強になることがたくさんあった。OISTにおける研究室での様子を見学したり、グループで月でのサバイバルについてグループディスカッションを行ったり、プリズムを使った実験を考えてそれを実行しプレゼンテーションを行ったり、またこのプログラムの一番の課題である“Think Big, Start Small”をテーマにそれぞれプレゼンテーションを行った。

OISTでは常に様々な人と意見交換ができるように至る所にホワイトボードや黒板が設置されており、研究室どうしの仕切りはなく行き来がしやすい環境になっていた。さらに研究設備は素晴らしくロボットが操作している様子まで見学でき、驚きを隠せなかった。参加していたメンバーの専門分野は様々であり、グループディスカッションではあらゆる方向から意見が飛び交った。私もその中に加わり議論できたことは私自身一歩成長できたところである。フリータイムでも話し合いは続き、正直わからないこともたくさんあったが、単科大学で生活をする私にとっては自分の知らない世界、知るべき世界がまだまだあることに気付かされた。多種多様の人の集まりの場ではあったがその全員に共通して言えたことはどの人も人には負けない得意分野があり、scienceに対する情熱を持っていることだった。そして専門分野以外の話にも高い興味を示し、お互いに意見交換をしあっていた。この姿勢は、将来薬剤師として働く私たちにとっても必要なことである。

私たち薬剤師は最善の治療を行うために薬のプロフェッショナルであることはもちろんであるが、それと同時に医師や看護師その他様々な分野の医療従事者とも意見交換しチーム医療を作っていかなければならない。また、私たちは同時に研究者としてもあり続けなければならないのだから。

このプログラムでノーベル賞受賞者であるTim Huntさんはこう言っていた、“Keep going”。ゴールにたどり着いたときはなぜこんな遠回りをしてしまったのかと思うことはたくさんあるが進み続けなければこのゴールにはたどり着いていなかった、だからどんな時もゴールにむかって進み続けることが大切であると。この言葉を胸に私も色々なことに勇気をもって挑戦し続けたいと思う。やらずに後悔するよりはやって後悔したい。みなさんも一歩外にでる勇気をもち、そこには限りなく広い世界があることを知ってほしいと思う。

最終日プレゼンテーション

Certificate授与後（左から2番目：筆者）

第3回「クリニカル・リサーチ・マネジメントプログラム(CRMP)」開催

Event

実践薬学コース 医薬開発ユニット担当：教授 矢野 義孝

今年度で第3回となる本プログラムが2019年2月12日から2019年3月15日までの日程で開催されました。今年度は4、5年次生合わせて32名を対象とした5週間のプログラムとし、パレクセル・インターナショナル株式会社から、種々の国籍の外国人講師に来ていただき、ビジネス英会話や医薬品臨床開発関連英語について、講義・グループ討論・プレゼンテーションを実施しました。最初は戸惑っていた学生もありましたが、プログラムが終了するころには講師とも英語で雑談する学生もみられ充実した日々を過ごせたものと思います。2019年度も4年次生を対象とした5週間のプログラムを実施する予定ですので、多くの学生の積極的な参加を期待します。

質問も全て英語で

グループでの話し合い

■薬剤学分野 5年次生　太田 千佳子（ちかこ）

私は2016年度に本学のボストンMCPHS大学サマープログラムを経験し、その後も英語力向上のため英語のプレゼン講座などにも参加しましたが、5週間もの長期間の英語のプログラムを受講したことがありませんでした。本講座では、英語を話す機会を得られるだけでなく、興味のある治験に関しての知識も得られると考え受講を決めました。

本講座の授業は講師からの一方的な講義だけでなく、グループでのディスカッションやポスター発表の連続でした。聞いたことのない専門用語や慣れない授業スタイルに戸惑うことも多かったですが、回数を重ねるうちにだんだんとコツを掴めたように思います。最も興味深かったのは、治験の実施基準であるICH-GCPに関する授業です。日本語でも学んだことのない専門知識だったため、理解が追い付かないところもありましたが、先生や同じグループの学生に質問しながら多くの知識を得られました。この経験を通じて、英語を話す楽しさだけでなく、英語で学ぶ楽しさにも気付くことができました。また、最後のCertificate ceremonyでは、先生に推薦して頂いて他の学生の前でこの講座での学びについて話せたことも貴重な経験となりました。私は将来、国際的に活躍できる人材になりたいと考えています。本学で学んだ薬学の知識と本講座での学びを元に、これからも邁進していきます。

本講座の運営に関わって下さった先生方に感謝致します。また協力し合いながら5週間を共に過ごした31名の学生にも感謝します。

■臨床薬学教育研究センター 6年次生　石田 優加子（ゆかこ）

英語で授業やっているのか～おもしろそう。そんな感覚で飛び込んでいったCRMP。受講に際し言語の壁、知識不足など多くの障害が伴いましたが、総合してとても満足のいくものに出来たと思います。

内容を簡単に紹介します。プログラムは全部で5週間。初めの2週間で英会話や英文法を含めた「英語を用いたコミュニケーション」に関することや、治験に関連する英単語、治験って何？といったような英語と治験に関する導入講義が行われました。3週目にて「治験が開始されるまで」、最後の2週間で「治験が開始されてから」の詳細を学習しました。講義は基本対話方式。京薬で普段受けるような一方向的な講義とは異なり、先生方と対話しながら分からないことや聞き逃したことをその都度皆で確認しながら進めていきました。

受講時、私は言語力と前知識が乏しかったこともあり、聞き返しや質問を繰り返しました。先生方はそんな私にも丁寧に対応してくださり、おかげで「その日の疑問はその日中に解決する」ことが出来ました。

CRMPの特徴として、「ゆるく、楽しく英語と治験のことを学べる」というのがあると思います。ピリピリとした雰囲気とは程遠く、休み時間は先生方含め皆で楽しくおしゃべりしたりご飯を食べたり、京薬にいながらどこか異国ただよう空気感を楽しみながら授業を受けることが出来ます。CRMPで知り合った友達とは今も一緒にご飯に行くなどCRMPを乗り越えたことで芽生えた友情もあります。

「英語に触れてみたい」「CROに興味がある」などきっかけはさまざま。春休みを利用して新しい世界にふらっと飛び込んでみるのもおもしろいのではないでしょうか。

■病態生理学分野 6年次生　上南（じょうなん）　静佳（しずか）

「医薬品開発」に携わりたいと強く思えたきっかけとなる研修でした。CROに興味がある人だけでなく、製薬企業での開発や病院で臨床試験に携わりたいと考えている人に、特に強くこの研修への参加をおすすめします。また、医薬品開発に興味があるわけではないけれど英語の力をつけたい、という人にとってもこの授業スタイルは非常に刺激的で、実践的な英語力が身に付く素晴らしい機会と思います。

授業では、先生の話を聞いて学んだことをグループで議論し、ポスターに視覚的にまとめて発表ということを1日に2、3回繰り返して行われました。その際、私が意識したのは全員が内容を理解して発表するということでした。簡単なことのように思えますが、日本語での議論とは異なり、互いの考えを英語で伝えあうことが難しく、自分の力の無さに何度も悔しい思いをしました。しかし、思いつく単語をひたすら並べてみたり、絵を描いてみたりと、あらゆる手段を用いてお互いの意見を理解しようと試み、全員で1枚のポスターを完成させることが出来た時は、毎回嬉しく、充実していました。そのなかで、一番心に残っているのは世界の臨床試験について調べて発表するというものでした。それぞれ色々な国の臨床試験を比較し、各国の特徴や問題点を議論していく中で、世界の医薬品開発をより活発・適正なものにしていきたいという思いを強く持ちました。

また、研修では、議論の進め方やプレゼンテーション・コミュニケーション能力といった、これから薬剤師・社会人として必要となるスキルを習得することが出来ました。さらに、研修前は、ただ漠然と企業を志していましたが、研修終了後には、世界の医薬品開発の現状と、それに関わる人の努力を知り、将来の自分像を具体的にすることが出来ました。このような自分の未来を考える機会となる研修を企画してくださったパレクセルおよび京都薬科大学の皆様に心から感謝いたします。

NEWS 京薬会だより

＜愛学躬行歴史資料室のご案内＞

本ニュース196号、また京薬会誌本年2月号「母校だより」でお知らせしましたように本学鈴木栄樹教授（当時）により新たに発見された資料をもとに創立記念日（開校式）が4月27日と確定した京都私立独逸学校の開校から京都薬学専門学校を経て、現在の京都薬科大学に至るまでの沿革を貴重な歴史資料と説明・写真パネルで紹介した愛学躬行歴史資料室を是非一度ご覧ください。

昨年5月にオープンして、はや1年が経ちましたが、読売新聞社・産経新聞社などの取材を受けました。5月24日には、雑誌『MIL』（MISSION IN LIFE 薬学生・薬剤師応援MAGAZINE、株式会社エニイクリエイティブ）の編集長小島信子氏が、資料室を同誌に紹介していただけるとのことで取材に訪れ、京薬会の西野武志会長と鈴木栄樹資料室委員長が対応しました。また、すでに1年次生の基礎演習のいくつかのグループが見学に訪れています。まだ、見学されていない基礎演習のグループはもちろん、個人でも友だち同士でもかまいませんので、在校生のみなさん、卒業生のみなさん、そして教育職員・事務職員のみなさん、どうぞおいでください。事前に京薬会（075-595-4621）へご連絡をいただければ、解説などの面でできるだけ対応させていただきます。

＜令和元年度　京薬会代議員総会の開催＞

令和元年度京薬会代議員総会を5月25日（土）に開催しました。

午前中には支部長による支部長会、そして午後に代議員総会が開かれました。支部長会に於いては、現在の京薬会ならびに支部活動の活性化、その他京薬会活動のさまざまな話題について、各支部長の意見集約とともに活発な議論が交わされました。

また、午後には全国から集まった支部ならびに年次代議員により令和初めてとなる代議員総会が開催されました。この中では、平成30年度事業報告、平成30年度決算、令和元年度事業計画ならびに予算案、来年の京薬会役員改選に向けての規程の整備について提案され、いずれも承認されました。また、京薬会の今後の財政運営の在り方についても議論されました。

＜ホームカミングデー開催予定＞

本年度で第10回となりますホームカミングデーは昨年と同様京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせて11月3日（日）に開催します。今年は本学病態生理学分野 芦原英司教授に講演を頂く予定です。卒業生の皆様の多数ご参加をお待ちしております。

■「日本薬学会第139年会」において、本学の学生8名が学生優秀発表者賞を受賞しました

3月20日（水）～23日（土）に千葉で開催された「日本薬学会第139年会」において本学の学生8名が学生優秀発表者賞を受賞しました。

口頭発表の部

受賞者：生化学分野 博士課程4年次生 柿花 采那
演　題：Hsp105は細胞のtaxol感受性に関与する
演　者：柿花 采那、大東 優衣、齊藤 洋平、中山 祐治

ポスター発表の部

受賞者：細胞生物学分野 5年次生 小久保 友恵
演　題：ヘルペスウイルス感染細胞から神経細胞傷害活性をもつユビキチンやα-シヌクレイン凝集物が産生される
演　者：小久保 友絵[1]、中曽 一裕[2]、須賀 圭[3]、杉本 温子[1]、渡部 匡史[1]、藤室 雅弘[1]
（[1]京都薬大 細胞生物、[2]鳥取大医 統合分子医化学、[3]杏林大医 化学）

受賞者：薬品物理化学分野 5年次生 渡邊 優哉
演　題：ポリエチレングリコール修飾リポソームと微弱低pH応答性ペプチド修飾リポソームの血中滞留性の比較
演　者：渡邊 優哉、中山 佳代子、中井 麻友美、丸川 裕己、小暮 健太朗、濱 進

受賞者：臨床腫瘍学分野 6年次生 茂山 千愛美
演　題：Stat5b阻害は発がんマウスモデル由来膠芽腫幹細胞にアポトーシスを誘導する
演　者：茂山 千愛美、藤田 貢、東馬 智未、安藤 翔太、河野 雪那、谷口 恵香、飯居 宏美、中田　晋

受賞者：薬剤学分野 博士課程3年次生 内藤 千尋
演　題：ヒトiPS細胞由来三次元培養皮膚を用いた経皮吸収評価系の構築
演　者：内藤 千尋[1]、山口 朋子[2]、 勝見 英正[1]、木村 思瑶[1]、亀井 咲知[1]、森下 将輝[1]、坂根 稔康[1,3]、
川端 健二[2]、山本 昌[1]（[1]京都薬大、[2]医薬健栄研、[3]神戸薬大）

受賞者：薬品分析学分野 5年次生 佐藤 未来
演　題：コルチゾール特異的認識能を有するイオン液体含有コルチゾールインプリントゲルの開発における
機能性モノマー量の検討
演　者：佐藤 未来、劔持 愛梨花、小西 敦子、 武上 茂彦、北出 達也

受賞者：代謝分析学分野 6年次生 宮本 佳美
演　題：分子イメージング手法を用いた移植膵島の生着率と機能性の評価
演　者：宮本 佳美、田中 未紗、屋木 祐亮、有光 健治、河嶋 秀和、安井 裕之、木村 寛之

受賞者：生薬学分野 5年次生 野口 大輔
演 題：クロタネソウ（*Nigella damascena*）種子から得られたdolabellane型ジテルペンdamasterpene類の
化学構造
演 者：野口 大輔、中村 誠宏、小川 慶子、林田 仁志、中嶋 聡一、松田 久司

※学年は受賞当時のもので掲載しています。

■「平成30年度日本体育測定評価学会第18回大会」において優秀発表賞を受賞

表彰状

学会大会「優秀発表」
京都薬科大学
坂根 裕美 殿

発表演題
「女子大学生における身体活動量と睡眠の質の関係」

あなたは日本体育測定評価学会第18回大会において優れた研究発表をされました
よってここに表彰いたします

平成31年3月2日

日本体育測定評価学会第18回大会
大会長 城後 豊

2019年3月2日・3日に札幌国際大学で開催された「平成30年度日本体育測定評価学会第18回大会」において、健康科学分野の坂根裕美さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞者：健康科学分野 5年次生 坂根 裕美
演　題：女子大学生における身体活動量と睡眠の質の間係

※学年は受賞当時のもので掲載しています。

■「第92回日本薬理学会年会」において学生優秀発表賞を受賞

表彰状

学生優秀発表賞
京都薬科大学病態生理学
河西 翔平 殿

発表演題
「アルツハイマー病モデルマウス海馬へのマウス骨髄由来ミクログリア様細胞移植によるアミロイドβの除去ならびに認知機能障害の改善」

貴方は第92回日本薬理学会年会において下記の優れた研究発表ならびに学生優秀発表賞に選ばれました
ここにその栄誉を称え表彰いたします
今後のご活躍と研究の益々の発展を祈ります

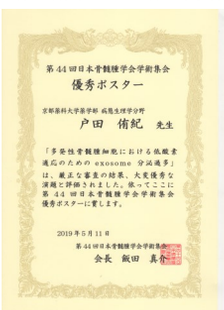
平成31年3月14日
第92回 日本薬理学会年会
年会長 金井好克

2019年3月14日～16日に大阪で開催された「第92回日本薬理学会年会」において、病態生理学分野の河西翔平さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

受賞者：病態生理学分野 博士課程4年次生　河西 翔平
演　題：アルツハイマー病モデルマウス海馬へのマウス骨髄由来ミクログリア様細胞移植によるアミロイドβの除去ならびに認知機能障害の改善
演　者：〇河西 翔平[1]、地嵜 悠吾[2]、戸田 侑紀[1]、中田 晋[3]、矢野 義孝[2]、北村 佳久[4]、芦原 英司[1]、高田 和幸[5]
（[1]京都薬科大学 病態生理学分野、[2]京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター、[3]京都薬科大学 臨床腫瘍学分野、[4]立命館大学 薬効解析科学研究室、[5]京都薬科大学 統合薬科学系）

※学年は受賞当時のもので掲載しています。

■「第44回日本骨髄腫学会学術集会」において優秀ポスター賞を受賞


第44回日本骨髄腫学会学術集会
優秀ポスター

京都薬科大学薬学部 病態生理学分野
戸田 侑紀 先生

「多発性骨髄腫細胞における低酸素適応のための exosome 分泌過多」は、厳正な審査の結果、大変優秀な演題と評価されました。依ってここに第44回日本骨髄腫学会学術集会優秀ポスターに賞します。

2019年5月11日
第44回日本骨髄腫学会学術集会
会長 飯田 真介

2019年5月11日・12日にウインクあいち（愛知県産業労働センター）で開催された「第44回日本骨髄腫学会学術集会」において、病態生理学分野の戸田侑紀助教が優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞者：病態生理学分野 助教 戸田 侑紀
演　題：多発性骨髄腫細胞における低酸素適応のためのexosome分泌過多
演　者：戸田 侑紀、中山 紗矢香、細木 誠之、芦原 英司

■『京都の訪問診療所　おせっかい日誌』が朝日新聞(2019年2月17日)に掲載されました。

■ 薬理学分野 藤井正徳准教授の研究が、薬事日報(2019年3月1日)に掲載されました。

■ 本学大学院がんプロコースの地域在宅医療プログラムが、毎日新聞(2019年3月4日)に掲載されました。

■ 本学で行った認定薬剤師認定授与式が、ドラッグトピックス(2019年3月18日)に掲載されました。

■ 京都橘大学との包括協定調印式が薬事日報(2019年3月20日)、毎日新聞(2019年3月25日)に掲載されました。

■ 一般教育分野 坂本尚志教授の著書が、朝日新聞「折々のことば」(2019年3月21日)に掲載されました。

■ 本学で開催した私立大学研究ブランディング事業キックオフシンポジウムが、薬事日報(2019年4月10日)に掲載されました。

掲載記事については本学ホームページよりご覧いただけます。
https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

＊ 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させて頂きます。

＊ 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2019年3月～2019年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

青木　長夫(昭16)
佐山　福繁(昭24)
安藤　寛治(昭29)
布浦　由樹(昭31)
森脇　茂子(昭32)
余公　春郎(昭33)
渋谷　禎彦(昭35)
伊藤　武宏(昭37)
川原子保子(昭37)
本岡美智子(昭37)
竹中　正則(昭38)
田中　万三(昭38)
高橋　泰子(昭39)
宮川　喬行(昭39)
磯田　健一(昭40)
稲坂　由美(昭40)
杉下友利乃(昭40)
伊藤　悦子(昭41)
寺坂哲太郎(昭41)
森　道子(昭41)
大原　松雄(昭42)
北澤　節子(昭42)
谷口　睦子(昭42)
山口　博行(昭42)
富永　護(昭43)
蘆田　康子(昭45)
稲垣　美幸(昭45)
武田　忍(昭45)
新田サユリ(昭47)
松林　照久(昭47)
袖岡　茂徳(昭49)
丹所　稔(昭51)
見並　英樹(昭52)
進藤　広彦(昭53)
中森　省吾(昭56)
金口　朋代(昭62)
西澤　善子(平03)
天ヶ瀬紀久子(平05)
楠山　龍(平05)
尾﨑　朋久(平11)
新楽真理子(平16)
京薬44会一同

＜ 平成元年会卒業30周年記念募金（平成元年卒業生）（五十音順）＞

川本　昌子

＜ 京薬四四会卒業50周年記念募金（昭和44年卒業生）（五十音順）＞

井川　道子

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

串田　ゆか(評議員)　武田　禮二(前理事長)　森　新(評議員)　森田　和子(理事)

(2019年5月31日現在)

KPUNEWS No. 198　2019年7月発行／編集：KPUNEWS編集委員会
発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。